

▼日程第1 一般質問

〔今泉藤一郎議長〕 日程第1 これより前日に引き続き、一般質問を行います。3番議員 久保田豊君。

〔3番 久保田豊君〕 皆さんおはようございます。議長の承認を得ましたので、通告に従って一般質問をさせていただきます。3番議員 久保田豊でございますよろしくお願いいたします。早速、今回3つの対策ということで本題に入らせて頂きます。1番は、陶器市の課題と今後の対策。今回も2議員ぐらい同じ内容があったと思うんですけど、非常に懸案事項が多くて、そのままやられていないということが非常に多いんですね。これ有田町というのは観光の町じゃないでしょうか。この観光の町に不可欠な問題がこの1番に上げているトイレの設置、特に女性トイレ。今回、私自身も陶器市期間中、1週間、毎回通りに出て、そして特に女性のトイレの近くでチェックしておりました。本当にですね大変なことです。何が大変かといったら、男性は意外とこれ、わからないんですよ。女性、お年寄り、そして子どもさん、男性の方は腹痛を起こしたことないでしょうか。腹痛の時のトイレの空いてないところ大変ですよ。待つということの辛さ。ここをやっぱり観光で、この町をしっかりと前後に知れ渡っている町ですから、しっかりと、ここは懸案事項ではなくて、必ず実行に移してほしいと、ここら辺の見解を担当課長なり、町長にお聞きしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 お答えいたします。今まで4番議員さん、5番議員さん同様のご質問ということでお答えさせて頂きましたけども、議員さん仰るとおりですね、トイレ問題については、かなり重要なことと私も認識しております。陶器市期間中における、トイレの設置につきましては、有田商工会議所の方とお互い連携しながらという形になりますけども、議員さんが仰られるようにですね、女性トイレということであれば、なかなか常設を増やすということは厳しいので、今後の対策としましては、仮設トイレの男女共用を分けて女性専用のトイレを増やすと。そこについては、東出張所であったり、有田商工会議所の跡地ですね、あちらの方に下水道直結型のトイレを置いて臭い対策を行うとか、そういったことで対応できればとは思っております。

〔3番 久保田豊君〕 町長の方は。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 議員ご指摘の件に関しては、本当に、ずっと懸案事項であります。今回、3年ぶりの開催ということでどんな塩梅かなというところもありましたけども、やはり切実な問題として、今

後、先程課長も申し上げたように、商工会議所さんとしっかり陶器市期間中のトイレをどうするかということは、各議員さん達からも示されているような対応とか、いろんなことができるんじゃないかなと思ってますので、懸案事項のままで終るのではなくて、動き出せというご提案だとは思いますが、そのように我々も動きたいと思っております。予算の付け方とかいろんなこともありますので、少しでも気持ちよく有田陶器市を帰って頂くお客さんを増やすことは我々の仕事ですので、その辺はしっかり商工会議所と組んでやりたいと思います。

〔3番 久保田豊君〕今、お聞きしたところ、陶器市期間中という話があるわけですけど、これ観光の町としての、今、例えば福岡県の公園、各公園があります。今、ウォーキング流行ってますので、例えば4. 12という、結局縮小版ですね、10分の1の縮小版の中で大体5箇所から6箇所あるんですね。トイレが。だからそういうことも含めて通常トイレが、やっぱり、僕は企業やってきましたから、例えば店舗、お客さんが良い店って評価を得られるのは一番はトイレなんですね。トイレが少ないというのは非常に問題がある。ましてやトイレが汚い。こういうことを疎かにせずにはまず足元をしっかり、なんだかんだえらそうなことを言っても足元がしっかりしてないことは成り立つことが非常に少ないのかなと。トイレ、されどトイレですよ。これ何回でも言いますが、僕自身もその反省会というのに毎回出席して出るのが今の話なんですね。それで終わるわけです。それは陶器市の時に仮設、そして仮設の場合も例えば女性だけの仮設、男性とやっぱり区別していく、やっぱり役割が男と女のやっぱり差別はないんですけど、区別があるわけですね。だからやっぱり気持ちよくして頂くという意味では大事な懸案じゃなかろうかなと思うんですね。だから陶器市期間中というのはもう当たり前のことで、通常の中で痛切に、後せめて2～3箇所、これは多分空き家対策にもつながってくると思うんですけど、空き店舗もありますし、ご相談さして頂ければ借りるということもできるかも分からないし、僕自身も3箇所通りに持ってますので、1箇所ぐらいは町にお貸ししていいと思います。無償で。だからそういうふうですね、ちょっと知恵を絞って、ずっと一般質問とお答えになる、執行部側のお答えになることの中であるのが、予算がないっていう話がまず出てくるんですね。費用の場合は、やっぱり3年、5年、10年という事業計画を立てて、その中で予算付けをして優先的なものをどうするか、もちろん町としては、安心安全っていう、ここが一つの大前提の中でやって運営されていると思うんですけど、議会と戦うんじゃなくて僕自身も何も課長を落とし込めようと思っているわけじゃなくて同じ課題の中で新しい有田よくなったねと、今回ふるさと納税も14億、これを20億増やしていこうと。昨日はガバメントというですね、クラウドファンディングの中のあるんですけ

ど、まさしく自治体がやったら安心安全、非常に訴え方があるわけですよ。今回トイレの増設をしたいということでやってもどうでしょうか。いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 議員さんの言われてます常設ということで理解して大丈夫でしょうか。常設トイレについて、今現時点において、設置しますとか、そういったとちょっとお答えいたし兼ねるんですけども、議員さん仰るとおり、福岡とか朝ウォーキングされているということをお聞きしまして、そうですね、各店舗の方に協力して頂けるところは、使用、お貸しして頂けるように今後陶器市以外にもそういったことを検討はしていきたいと思っております。先程、予算ということもありましたけれども、実際、陶器市、有田陶器市における予算ですけども、実際常設トイレと仮設トイレあるんですけど、全体含めて約560万円程かかっております。もちろん仮設トイレは汲み取りもございますので、その560万円が高か安いかわちょっと別として女性トイレも含めて今後トイレ自体はお客さんを迎える側として必要だと思いますので、そこはちょっと検討していきたいと思っております。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 議員がご指摘の件であります、やはりガバメントクラウドファンディングみたいなのは相性いいのかなと思っております。見せ方等、まあ研究しながら今うちにはふるさと納税、個人の対応の担当おりますが、その企業版とかガバメントクラウドファンディングの担当がおりませんのでちょっと簡単にはいかないとは思いますが、そういった専用というか、担当を設けて今のようなお話をできればなというのは私個人的には思っておりますので、ちょっと他の自治体とかいろんな首長さんとかに相談しながら、いかに目立ってしっかりとファンディングしてもらえるような体制づくりがやっていければなと思っております。

〔3番 久保田豊君〕 これはどこの町でも同じなんですけど、県自体もそんなに予算がなく、国がある程度の分配の中であっている。各省庁からいろんな環境に対すること含めてこれもパイプの問題だと思うんですね。これ一緒になってやるということで考えて頂けないでしょうか。やらないとかですね、やれないと思ったらやらないんです。そこに一つの大きな問題がある。毎回毎回こうやって質問させて頂いてできないのであれば何のための質問なのか、何のための議員なのか、ここもですね僕自身はせつかくこの議員の方になったからには、しっかりとここを声を届けて、同じ中で執行部と一緒にいろんな知恵を絞ってやっていければ、これが一番チーム有田という町長が掲げられているようにですね、しっかりと一丸になってやる、僕自身は新人議員で議

会というものはどういうふうになっているんだろうと、そして議員さんたちはどういう、ちまたでは議員は何やってんだと、言うとか、言うとかってホームセンターじゃないぞと、僕もだいが言われました。でもですね、入ってみて驚いたのはですね、今期特になんでしょうけど、2年生議員が引っ張ってくれてですね、勉強会、ヒアリング、そして先輩議員たちがいろんなことの中でこういうことが躓かないようにと、そしてこうことをやっていこうよということをですね、いろんなことが出てます。お、なかなかやっているなど一緒になって初心になっていろんなこと、そして自分ができることを、できないんですよ、お互い松尾前議長は全国のですよね市町村会の議長をされて人脈が広がってますので、そういう人脈を含めていろんなことの中で知恵を出し合っていくことが大事じゃないかなと思います。本当に懸案事項ですからこれだけはですねしっかりとやっていくと、できないじゃなくて、どうしたらやれるのか、ここの発想をしていかなとどうしてもやらないんです。会社運営でもそうです。一步一步でしかないです。一気に十段二十段上がれるわけじゃないんですけど、足元をしっかりと見据えて、そしてできる人の発想というのは、まずプラス発想をします。そして前向き。前向きもプラス発想も一緒なんですけど。あと勉強好き。素直。こういう要素が必要になってくるんですよ。常にどんな立場であろうとこの素直さを忘れないようにやって頂ければありがたいかなと思っております。次に2番目、駅までのアクセス案内、位置案内ですね、これも多くの声を聞きました。有田駅はどっち、どこ、何分ぐらいで行けるんですか。有田の駅でも同じなんです。これ必ず聞かれるんですよ。聞きやすい顔しているんでしょうかね。必ず聞かれるんです。これもそんなに費用的には掛からないと思うんですよ。看板ですから。それも統一看板で見やすい形でこれも民間の方にお問い合わせするなり貼らして頂くとか、これも一緒になって僕自身も回らせて頂いていいし、内山地区は、手塚さんなんかはっきりおられますから、各議員がおられますから、議員と相談しながらそういうできれば最低でも3箇所ぐらいあればいいのかなと思っております。スマホを使えば位置情報って出てくるんです。でもなかなかスマホ使ってどういうふうな形でやるかということは分かりづらいということですので、この辺のことはどうでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 議員が言われたように紙、紙ベースと、あとスマホ、地図の案内については賛否両論あるかと思えます。ただ、ガイドマップですね、有田陶器市のガイドマップの1ページ目の方に主要ポイントまでの距離とかは掲載があります。ただ、ここの地点から両駅までの距離とかそういったものが掲載がなかったものですね、こちらについては今後吹き出しか、主要ポイ

ントです、例えば東出張所とか、札ノ辻から上有田駅有田駅までの距離とそれと時間、それと看板を設置できたという事で有田商工会議所と今後調整を図っていきたいと思っております。

[3番 久保田豊君] しっかりと、なかなか地図も見させて頂いたんですけど、有田町内の人間は分かるんです。町外の人間は分からないんですよ。うちもパートの女性が武雄とか、今、早岐から来てますので見せて分からないです。だからそこも認識されてですね、やっぱり県外から来られるっていう、町外以外ですから、そういう視点に立って考えて頂きたいなと思っております。時間ももう半分過ぎておりますので、その他の問題というのはちょっともう省きます。2番目に過疎化対策。これも被ってあるんですけど。これも本当に特に一番で上げている内山地区。この問題は4,000人以上おられたのがもう半分切っている。僕自身も内山地区ぐるぐるぐるぐる回るわけですけど、工場が多いんですね。工場が4社ぐらいまとまってありますから、これの移転という話を直接僕は3社に聞きました。移転していいと思っているということなんですよ。その跡地に300世帯はできると思いますよ。楽に。だからそういう大きな発想をしながら、そしてずっと前に上有田小学校から丸尾に抜ける道を道路を作ると。今、ダム経由で回ってますから、あれも危ないし、遠いんですよ。だからそういうふうな大改革をして頂ければどうでしょうか。本当にちまちまちまちましたことやってても、もう戦後70年以上経っていて、大きく変わる、大変って、大きく変わるというんです。大きく変えてみてはいかがでしょう。町長。

[今泉藤一郎議長] 町長。

[松尾町長] 今、議員が仰られたとおりのことかもしれませんが、やはり役場としては先ほど触れられましたけども予算の話もあります。そういったところでちまちまというところに外側から見たら見えるかもしれませんが、我々は我々でしっかり戦略を立てながらと思っております。先程お話あった白川から丸尾というお話しなんですけども、先日、防災ヘリの方で乗せて頂いて前から懸案というか、提案もあっておりましたので実際見ました。そしたらやはり山からの距離とかいうところでちょっとなかなか厳しいのかなど。自然を、また自然破壊というところもありますので、そういったところも含めながらやっぱり展開をしていきたいなと思っております。内山地区あります。私もちっちゃい頃遊びに行っていて、その時には本当お店もいっぱいありました。それが今ほとんどない状況なので。なんとか先程のお話しのような工場が移転した時には我々で開発するということはなかなか厳しいので、民間の方でというところも夢を語るべきだと思っておりますので、行政としてちまちまやってますけども、夢を語る分は大いに聞いて、そこに我々行政としてどう寄り添っていけるかというところを研究していきたいと思っております。

〔3番 久保田豊君〕 この問題も行政としてっていうことよりやっぱりやるという意志力がなかったらなんにもそこに情報が入ってこないんですね。やれないと思うからそこに小さくなってしまう。どうしたらやれるんだらうか、これに尽きるわけです。だから思考的に先ほど言ったようにプラス思考で物事を考えて、そして一人でやれるものではないんですね。何も町長一人でやれていう話ではなくて、一緒に、共に、さっきから言うように共にやると。一丸となって、この町が良くなってほしいという思いは両方一緒ですから、そういう僕ら町民の代表者として出てきて、今のままでいけば過疎化は進むし、皆さん本当に間違いなく進むのは極度の高齢化社会ですよ。極度です。今までにない団塊の世代の人たちがもう高齢化社会にどんと入ってきてますので極度が入るわけです。それと少子化。これはもう各議員さんからのお話がありましたので、深くは取り下げませんが、間違いなくこの2つは間違いなく来るわけですね。それに対してのまちづくりをどうしていくのかということをやっぴり先々にです提案しながらやって頂ければ。やっぴられないという話ではなくて、やっぴいかなければならない、自分たちもそうです。僕は20年後居るかどうか分からないです。そういう意味では残った人たちに対してのやっぴり安心安全をバトンタッチでつないでいく。そういう一人ひとりがそういう意識をもってやらなければいけないんじゃないかなと思うんですよね。これも時間あまりありませんので、ここで。あと空き店舗と空き家の老朽化ってこれも連動していると思うんですね。僕自身は国に一括で固定資産税は含め、国のもんなんですよね。国がいったん買い上げて、そして町なりに払い下げて、そして町から民間に委託するとか、なんか方法をそろそろ変える時期に来ているんじゃないかと。税法もどんどんどんどん変わっているわけですけど、こういうことを先々にやっぴり県と国っていうパイプをつないで頂いて、同時にそういうことができるように、なかなか町単独ではできることというのは非常に少ないだろうと思います。ここもお知恵を借りながら僕自身も中央に非常に友人多いので、是非、僕ができることは今から引っ張って来れますので、今まで事業主としてやってきましたからなかなかそういう話はできませんでしたが、こういう行政に対しての応援を頂くということは大いにあるのかなと思っております。最後に、安心と安全の対策という問題に入らせて頂きます。いよいよ本格的な梅雨のシーズンが迎えることになります。豪雨にもう毎回ですよ、豪雨による被害が出ているわけです。これもほかの議員さんから再三あったと思うんですけど、町長の所信表明の中でも上げてあったんですけど、各地区でそういう組織体が出来上がっているかどうかお答えください。

〔今泉藤一郎議長〕 総務課長。

〔木寺総務課長〕仰られたのは、地区の自主防災組織のことかと思えますけども。町内の自主防災組織の組織率は89.数パーセントという組織率です。あと、総区で1つ、地区で1つが未結成ということですが、現在結成に向けてご相談も受け始めたところですので100%目指していきたいと思えます。

〔3番 久保田豊君〕その中で防災訓練ということを実際やられた区はあるんでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕分かるところでは8区、下内野、そういったところで防災訓練を実施されてますけども、コロナ禍になったここ2年はなかなか実施ができていないという状況かと思えます。

〔3番 久保田豊君〕そうなんです、僕自身もちょうど総区長を受けている時に、消火器、ちょうど九陶の方で消火器の訓練があったの参加させて頂きましたけど、初めて触ったんです。考えているのとやってみることで全然違うんですね。これ一つ取ってもそうなんです。だから今の安心安全という想定外ってよく言われるように、危機管理っていうのは想定外のことを考えることが危機管理、一度、僕、総区長会かなんかでお話ちょっとしたことあると思うんですけど、例えばダムに土砂崩れがしてダムが決壊するという想定はされているかどうか。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕これが有田町が作成しておりますハザードマップです。このハザードマップには、今回、令和4年2月に改訂を行いましたけども。有田川の白川川流域に638ミリの過去最大です、638ミリの6時間雨量で降った場合の想定、広瀬川、竜門ダム周辺ですけど、有田川流域に636ミリの6時間雨量が降った想定、それと千年に一度といわれる9時間の総雨量が692ミリ降ったという想定のもとにこのハザードマップができてます。こういった形で町内全世帯に配布をしておりますけれども、浸水想定区域と土砂災害警戒区域が示されております。今、申しあげた雨量そういったものに想定して、最大こういったところが浸水になりますよというのが、このハザードマップです。あくまでこれは目安、準備、備えに使って頂くためのハザードマップということで、これは行政というよりも住民お一人お一人がこのことを認識して頂くことがまず第一かというふうに考えております。そのため通常、自助・共助・公助といわれますけども、自助・共助の部分です、できるだけ能力を上げていく、そうすることによって公助とバランスが取れてより効果を発揮するものと考えておりますので、町民の皆さんのご協力と訓練と重ねながら危機管理を徹底していきたいというふうに考えております。

〔3番 久保田豊君〕そうなんです、お一人おひとりの意識がやっぱり大切だと思います。あくま

でも行政はそれを補助していく形で、稼働していくのはまず地域では班長さん、そして民生員さん、そして消防団、これ非常に、消防団特に稼働率としては大事なところになってくると思います。民生委員さん自体はこの家にどういうふうな方たちがおられるのか、高齢化で動けないのか、動けない人はほとんど施設におられるわけですけど、そういう認識のもとに日ごろから連携をしていく、これは区長さんとか、総区長さん含めて地域にお願いすることが多々あると思うんですけど、昨日一昨日も区長さん達と顔合わせで松永議員と一緒に立ち会いますが、そういうコミュニケーションを地域で拾っていく、一人ひとりの意識がそこに向かわんとなかなかですね、危ないのに家から出るより家の中にいた方がいいとかですよ、そういうこともそういったような中に、あることを前提の中にやっぱり考える。そして夜は移動しない、早い時期に移動をしておく、そういうことも防げる一つじゃなからうかな、そして同時に自分たちが避難する場所が町内だけではなくて親戚含めて知人友人の中にあるかどうかという確認もですね、ここがやって頂ければ、そういう指導の下によってこういう災害とかなんとかは防げることが多々あると思います。いろんな意味で執行部の方は大きな問題がいくつでもあって毎回、毎回言われるわけですけど、先ほど戻しますが懸案事項に対しては、できるという発想をして頂きたいし、そして自分たちの町としては難しいのであれば、県、そして国というものを活用しながらやって頂ければ必ずや良い町ができあがるんじゃないかなと思っております。そろそろ時間となりましたので、これにて一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕 3番議員 久保田豊君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開は10時40分といたします。

【休憩10：30】

【再開10：40】

〔今泉藤一郎議長〕 再開いたします。14番議員 藤誠一郎君。

〔14番 藤誠一郎君〕 皆さん改めてこんにちは。ただ今、議長の許可を頂きましたので一般質問に移らせて頂きます。いいでしょうか。はい。まずは3年ぶりの有田陶器市を開催できまして、町民の一人として感慨深いものがございました。尽力された関係機関の方には心より感謝申し上げます。いろんな課題、問題点も前回の3番議員さんからも指摘がございましたが、私も数日間、現場を視察を兼ねまして、観光客の皆さんのご意見、また出店をされました町内外の方々にも意見を聴取をさせて頂いたところでございます。本日はその中でも2つの視点から問題提起をさせて頂いております。1つは、JR有田駅の問題。もう1つは、町を支える産業人口について質疑



を絞って答弁の程をよろしく願い申し上げたいと思っております。まず、JR有田駅前の再開発、環境整備、西九州新幹線の問題であります。この問題につきましては2年ほど前ですか、現佐賀県山口知事とも会う機会がございまして、この問題についても意見を交換したところでもございますし、有田という町にもっともっと力を入れてくれという意見も私の方から出させていただきました。そうした中でこれまで今議会においてプラス思考、マイナス思考、いろんな形の中で議論討論されておりますが、懸案する材料の一つとして、近い将来ですね、近い将来、JR有田駅が第三セクターに委ねられ料金の値上げ、また利便性、サービスの低下に伴うですね、利用者の減が想定されるのではないかと私自身は危惧をさせて頂いております。そうした中で町や県はどのような対策を講じていくのか、また何か準備をされて計画をされていらっしゃるのか、さらには町の負荷、負担になっていくのではないかとということも含めてこういう声も聞いておるんです。そうした中で町長の声に、耳に届いておるのか、その辺について町長の見解を求めたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕議員ご質問の有田駅の再開発というか、有田駅に関しては我々も十分皆さんのお声は聞いております。オープンから15時に終わるとか、不便になったという声もありますし、JRの減便が進んで有田駅が廃れていくのではないかとというのは言われておりますので、我々もしっかりと町としても県としても山口知事と私もしっかり話をし、ここで公にできませんけども、いろんなお話をしております。しかし最終的にJR九州も株式会社ですので、我々がいくら声を届けても聞いてもらえないというのが実際今まで私も何回もJR九州にお伺いして声を届けようと思しますが、なかなか市場主義というか、というところもありますので、我々も首長として皆さんの声を届けるのが私の仕事ですのでもちろんトップセールスに行った時にもお願いもしますし、山口知事も佐賀県の中で特に有田は観光ということで肝入りでやっていきたいという思いも強く、私も共感しているのです、そこは一緒に県と有田町として動いているところであります。

〔14番 藤誠一郎君〕町長ね、ぜひね、やはり有田の玄関口というところと意識をして頂いて、やっぱり先ほど仰ったように、佐賀県知事と町長またJR九州の方とも、やはり向こうは企業ですので利益が出ないと縮小せざるを得んというような形になりますので、この辺については十二分に県知事を引っ張ってJR九州の方にも再度打診をして頂ければと思っております。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕もちろん知事と一緒にやっていきたいと思っております。今回、一般質問等に上がってません

けども、やはりJR九州、西九州新幹線が開業するというのが一つの大きな要素でありますけど、私はハウステンボスのIRというのも大きなチャンスだと思います。IRに来られたお客様はプライベートジェットで来られたりして、そこから近隣のところに回られることでありますので、JR九州さんはハウステンボス内にも関連企業多く持たれてますので、そういった意味でいうとやはり有田はまだほかの地域に比べてはチャンスだと思っておりますので、そういうこともやっていきたいなというところもありますので、JR九州さんとも要望は伝えながらも仲良く上手くやっていかなくちやいけないかなと思っております。

〔14番 藤誠一郎君〕ぜひJR九州の方には有田に投資をしてくれと、後ほど話しますが、そういう意気込みで、ぜひ町長が言われた挑戦という言葉もございまして、あなたはまだ若いので、こんなかでは一番若いので、失敗を恐れずに頑張してほしいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕つい先日も長崎県のIR推進課という方と意見交換をさせていただきました。その中で長崎県としても、やはりハウステンボスの近隣の中では有田は特別だということですので、そこで観光協会を通してなりの旅行のプログラムを作ったりというのは積極的にやっていきたいので、長崎県としても、そういった提案はウエルカムということでしたので、そこはJR九州にもしっかりと長崎県、佐賀県としてやって頂けるというお話を頂いております。私も48年間、毎日、有田駅を見て育ってましたので、駅に対する思いは強いので、そういうところも含んでしっかりとJR九州と話をしていきたいと思っております。

〔14番 藤誠一郎君〕本当にあそこの周辺の環境整備についてはですよ、トンネルも外尾町に続いておりますので、一人ぐらしか通れませんが、その辺についても後ほど発信をしていきたいと思っております。次に、町役場の移転についてでございます。過去に何度も私を含めて十数回ですか、合併後議論をされてきております。新しい有田町役場移転の件でございまして、町長としては、このまま保留にしたいのか、それとも完全に終わった話なのか、この件に関しましては、果たして有田を支えてきた先人、先輩たちの思いや願いは無視していいのか、これについてまずちょっと資料をモニター出してください。見て頂いているとおりでございます。昨今のスマートシティやコンパクトシティの成功の成功、失敗例も多々ありますが、民間の力、知恵を借りながら行政サービスのスマート化を達成する、そして行政が指導するですね、都市開発によるコンパクトなまちづくり、今だからこそ、今だからこそ、駅周辺にですね、有田町役場、つまり住民サービスの拠点、利便性の高い場所に移行する計画を頭に町長は描いていらっしゃるのか、その辺につい

て所見を求めたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔14番 藤誠一郎君〕まちづくり課長。あなたに言っているんじゃない。町長に言っているんだ。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕新庁舎建設につきましては、最終の新庁舎建設審議会の方で第3回目になりますけれども、そっちの方で答申を受けて、基本的には新たに庁舎を建設した時がよいと判断した時点で改めてもう一回諮問して結論を出すという形になっております。

〔14番 藤誠一郎君〕それは聞いている。

〔吉永まちづくり課長〕庁舎に関してですけど、今後、議員が示されたとおりに当然スマート化とかが進んでくると思います。スマート化が進んでくるとどうなるかという、庁舎が逆にどこにあってもいいという形になるのかと思ってきます。ので、そうなってきた場合にどういうふうに対応していくかということは、職員の方でしっかりとサポートしながらそういったDXを含めたいろんなものを使いながら、いかに町民にある意味、直接的にサービスをつなげていくかということを含めていく必要があるかと思えます。それと庁舎の場所がどこにあるかというのは直接的にはあまり関係がないのかというふうに考えておりますので、その辺を踏まえながら今後庁舎建設については財政上の問題もございますし、まだまだ公共施設等老朽化が進んでおりますので、先に手を付けなければいけない案件もございますので、その辺を見据えながらちょっと検討してければと思っております。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、課長が申したとおりやはり新庁舎建設に関してはもう終わった話では私はないと思っております。先送りするという答申も出ておりますので、今から我々も行政としてしっかりDX化、例えばオンライン申請とか家でできるようなことも増えていきますので、箱モノを作るというよりは、私は今とりあえず先送りしているという状況です。先程課長からも答弁ありましたが、ほかの老朽化した公共施設を統廃合等も含めて公共施設の見直しをまずやりながら、時が来たらと思っております。とりあえずこの4年間はしっかりとそういったDX化を進めて役場の効率化もそうですが町民の皆さんにいかに便利なサービスを提供できるかなというところを進めていきたいと思っておりますので、お気持ちは重々私も理解して、私もやりたいなという思いはありますけれども、やはり今はまだ先送りの状況かなと理解しております。

〔14番 藤誠一郎君〕これは基本的に先ほど3番議員が仰ったようにやるかやらないかですよ。や

れるか財源がないとかそういう問題ははっきりいって町民の税金ですよ。皆さん。それを住民サービスの拠点をまず利便性の高いところに作ったほうがいいんじゃないかということを私は言っているんです。町民の声、また要望を改めて聞いてみたらどうかと、町役場に対するアンケート実施するだけならですね、そこまでの経費や労力は必要ないと考えております。是非この辺については町長、実際これだけ2万人の、たかが2万人の町ですよ。しかしブランド、名前だけではすね100万、1,000万に匹敵するぐらいの有田なんです。その辺を頭の隅に入れてですね、前に進めてほしいと思っております。次にいきます。区画整備と再開発の可能性についてですが、駅前活性化や利便性を追求したら町だけではなく民間も含め予算や財源の確保が必要であります。JR九州、大手旅行会社などの民間と協力をして頂いて、よく駅前開発ができないかと私は考えておりました。そうした中で高速バスや駅近くにアクセスできるような駐車場や、先ほど言いました道路拡張整備、例えば駅に直結したホテルやレストランは陶器市の期間中のみ利用できる限定施設など、有田ならではの特化したアイデアを皆さんから頂きながら、有田町内に住んでいる方だけじゃだめなんです。町外、県外に住んでいる方からの募集も含めてですねいろんなアイデアをやはりもつ時期だと思っております。この辺について、町長、あなたの今多方面ですね、いろんな企業誘致含めて行ってらっしゃいます。その方とお話をしてどういう感じで有田がよかすばいという話をされているのか。これについてお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕議員ご質問にお答えいたします。来週、来週とか今度の日曜日、月曜日にお客さん来られますし、火、水とお客さんも来られます。その方はコロナ禍の中でオンライン会議しかやれなかった方たちに実際リアルな有田を見てもらうということもあります。ホテルに関しましては、私も広報にあたっております。皆さんご存じのとおり知っているようなホテルも3箇所もあっております。ホテルに関して申しますと、やはり最終的にはマーケティングをされてその中でどうしても武雄、嬉野温泉があります。佐世保、伊万里はビジネスホテルが多くありますので、そういったところでなかなか最終的にはいきませんが、私はそういう何百人も泊まれるホテルは要らないので20人でも30人でもというお話を今して、何件かは今動いてもらっていますので、そういったところも含めてしっかりとJR有田駅前がなるようにとは思っております。陶器市期間の前に有田駅の目の前にハンバーガーショップもできたり、また誘致企業も進出したりとしてあの辺に通りがやっとな賑やかになってきたなと思っております。有田駅前から九陶までの直進道路をいかに賑やかにするかというのは各担当の課長とも今から話を詰めながらやっていきたいな

とっております。

〔14番 藤誠一郎君〕 JR有田駅周辺の活性化は本当に望む声が多いと思います。有田焼窯元や商人だけではなくですね、様々なビジネス機会を多くもち、また交流を作る必要があろうかと思えます。また近隣にはですね有田工業高校、佐賀大学などいろんな方がですね駅を利用されます。15時で閉まっているんですよ今ね、現実には、これはなんとかせんといけんと思っております。また、有田陶器市の集客・観光の拠点となる重要な場所であるということは町長も認識をされておるとおりでございます。このままでは有田は魅力のない田舎の無人駅になろうかと思えます。ここで一つ提案をしたいなと思っておりますが、まずちょっとその前にですね、時間もございませんので商工観光課の今、課員は何名いらっしゃいますか。課員、職員。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 現在、商工観光課の方には正規職員といいますか、職員の方が私を含めまして6名、それと国際交流員と後1名が地域おこし企業人の方とおこし隊、全部で9名、職員だけは6名になります。

〔14番 藤誠一郎君〕 副町長。ちょっとあなた今日はずっと喋ってなかったのですね、一つお願いしたい。今からはですねやっぱり椅子に座って仕事をするもの大事だろうと思えますが、町長だけ走らせるんじゃなくて、職員の研修という形でいろんなところをやはり勉強研修させてあそこ行ってこい、例えば大分なら大分行って来いと、ちょっと2～3日間勉強して来いというようなことをできますか。

〔今泉藤一郎議長〕 副町長。

〔福田副町長〕 職員の資質を上げることは重要なことだと思っております。いろんなところ、視察先、先進地もございますので、いろんな制約はございますけども、できる範囲でですねそういう勉強をさせていきたいと思っております。

〔14番 藤誠一郎君〕 ぜひよろしく申し上げます。本当にちょっと時間の都合上ですね私から提案3本ぐらいあったんですが、これはまた観光課長の方にお見せしてですね検討してもらえればいかなど。こういういろいろな方向性を出して頂いて役所のみならずですね、JRや異業種からの意見を募る、募集するもの良いかなと思っております。ぜひ議論や協議できる場を作り、若者のためのJR有田駅周辺の再開発を目指してですね協議検討を重ねてほしいと思えますが町長いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕ぜひ今日時間ないとのことですので、ご提案できる内容後で聞かせて頂きたいと思えます。私も今からまちづくりとしては、やはり若者が必要だと思えますので、ちょっと今オール有田で花火すっけんのメンバーたちにお声かけしてちょっと意見交換をしなくちゃいけないなという事で、担当の者とは動いておりますので、そういったところは重々今から観光に寄り添ったJR有田駅だけではないですけど、まずシンボルチックにそこを変えていければなと思っております。

〔14番 藤誠一郎君〕私もJR有田駅構内、地区活性化推進計画素案といった分を持ち合わせておりますので、これも、我々も年齢も高くなってきております。やっぱり30代、40代、20代含めてそういった方たちに次の有田を作る人間を育て、やはり勉強し、やっぱり教育をして、町長が引っ張っていくような仕組みが一番いいのかなと思っておりますので、是非この辺については検討じゃなくて推し進めてください。次、2番目の人口増対策についてでございます。今回もこの問題については、いろんな意見が議論が入っております、もう言うあれがないのかなと。ただ、私自身が心配しておるのが、今までこれだけこの過去10年以上、人口増対策、減少対策についていろんな予算含めて出された中でもなかなか費用対効果が生まれてこない。ただ、ここでやはり私たちが何をすべきなのかなと考える一つの形をちょっと提案しますので、ちょっとモニター2を出してください。これは明石市の事例です。9年連続人口増加率1位と。5年で1万人を超えると。何があっても5年で1万人も超えるのかなと。年間2,000人ずつですね。何の施策なのかなって思った中で、一つの施策がこういう施策がありました。同様な施策を有田も行っておろうかと思っておりますが、現時点ですら改めて予算や財源の余裕はないと思っておりますが、有田町ならではの優遇措置のアイデアを町民、県外から募集するなど他の町より有田が面白いと、すてきだといってもらえる政策を計画実行することが急務と考えております。昨日ですね、15番議員が人口増に対する質疑をされておりましたが、この課題は町だけではなく日本国全体の抱える問題であります。九州は福岡県に人口が集中しておりますが、今後も変わらず、同じ状況であろうかと思っております。福岡や周辺の佐世保、伊万里、武雄と比較して有田町の立地環境を生かす政策を考えていくしかない。有田町の立地環境を生かす政策を考えていくしかない、今の有田町の財政規模は約55億です。間違いございませんね。財政課長。標準財政規模は55億でしょ。

〔今泉藤一郎議長〕財政課長。

〔鷲尾財政課長〕その程度になります。

〔14番 藤誠一郎君〕かなり低いんです。給与水準、雇用の今の企業の雇用水準も県内の最低レベ

ルに近い水準だと思います。陶磁器の製造販売は素直に言えば、率直に言えば個人経営の零細企業に等しいと。町内の働き口としては、機能しにくく雇用も生みにくい。今後は政治の力、町長あなたの力を発展に使うしかないと考えております。例えばですね、福岡県内ビジネスの町で働いていらっしゃる方の移住者を募りですね、有田から通勤してもらおう。その交通費をですね町が当初補填をする。雇用者を有田町に集める仕組みや仕掛けを企画してみてもどうかと、このような政策はあくまでも一例でございますが実証実験レベルで始めていいかなと思っております。効果検証をしつつ良い政策を生み出して、新たな有田町の魅力として人口減少に歯止めをかけたかどうかと私は考えておりますが、町長最後の所見を求めたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご提案の件は大変すばらしいアイデアだとは思いますが、やはり今有田町で困られる方も多いと思いますので、まず、町内の方が困っているところにそういった予算は使われて、やはり私も福岡の大学に行っておりましたので1時間20分かけて大学の1限目に間に合うように通ったりするというのは非常にきつかった思い出がありますので、今サテライトオフィスとかいろんな働き方がありますので、そういったのは通勤費ではなくて、今、ご提案頂いているようなアイデアを上手く織り込んだような施策を考えていきたいと思っております。今ちょっとオープンにはできないような案件でちょっと2年、3年かかるような話もしっかりと片方では進めてますので、そういったところが実るようにしっかり動いて働いていきたいと思いません。

〔14番 藤誠一郎君〕本当、是非ですね、具体的な行動に移してもらって、まずは動く、町長のみならず皆さん動いて他所を見て、やはり有田を何とかしたいという思いがあるかと思っておりますので、ぜひその辺を我々も議員ももちろん動きますが、やはりオール有田と言われておる以上、その辺は皆さんに意識を高めて頂いて有田を良くしていきたいという思いで、今回、質疑させて頂きました。以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕14番議員 藤誠一郎君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開は11時20分といたします。

【休憩 11 : 10】

【再開 11 : 20】

〔今泉藤一郎議長〕再開いたします。11番 蒲原多三男君。

〔11番 蒲原多三男君〕 11番 蒲原多三男、ただ今、議長の許可を頂きましたので、新議会にての第1回目の一般質問を行います。町民の皆様この度ご指示ご支援を頂きまして心より感謝申し上げます。更なる決意と覚悟をもって4年間全力で私以外の15名も申しておりますので申し伝えておきます。どうかよろしく願いいたします。この議会におきまして2点質問をさせていただきます。1点目は地方創生臨時交付金について、2点目は地域の防災力強化についてであります。まず、新型コロナのウイルス感染症の長期化並びにウクライナ危機によりまして、物価高騰の影響を受け、今、国内の食品関連は数週間前の段階で食品関係の商品の値上がりが2万点を越えたとの報道もありました。町民全ての方がこのことに大変な思いをされておるのではないのでしょうか。このような中で学校給食におきましても食材費の値上がりが一層懸念されます。そこで学校給食の食材調達現状と、食材費と予算のバランス等を含めた今後の見通しについてまずお伺いしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 お答えいたします。食材費等の価格につきましては、ここ数年上昇傾向にございます。そして最近の物価高の影響によりまして食材の確保も難しくなっているような状況でございます。具体的には食材価格の状況についてですけれども、県によりますと、佐賀県学校給食会が持っているデータになりますけれども、昨年、令和3年度分との比較で、約8%上昇しているというような状況でございます。この物価高は、まだ収まる気配がないようですので、この状況はもう少し続いていくのではないかとというふうに思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕 ありがとうございます。今般の食材費価格の高騰は輸入食材に頼らざるを得ない日本の現況もあるのではないかと思います。これからの対策施策として地域地元産の食材をより多く活用採用することで今よりも少しでも供給の安定化が図れるのではないかと思います。地域農漁業の振興や職域の観点からも有用と考えますが、この件についての見解を伺いたしたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 地元食材の件ですけれども、地域の地元食材の活用の状況についてですけれども、国の学校給食における地場産物、国産食材の使用状況調査というふうなものがございまして、これに西有田中学校の方がこの調査の対象校となっております。その分のデータによりますと昨年、令和3年度になりますけれども、地場産物、県産物も含まれますけれども、その割合が52%となっております。それからこの地場産物に県内産物を除いた国産分ですね、それが3



1%ですので、国内全体では83%というふうな状況になってます。従いまして輸入製品の割合については約17%というふうな割合と現在はなっている状況でございます。

〔11番 蒲原多三男君〕 はいありがとうございます。日本、一般的には日本国内全体では、輸入食材に頼っている比率が数十年前は50%を超えているという状況もあって、多分ここ2～3年は40%台、日本全体の食品の40%以上が輸入に頼らざるを得ない状況になっているというお話もありました。先程も申し上げましたけども、未来はどのようなになるか、また何が起こるか分からないと考えれば、原価、コスト、予算抜きでは町の自治運営も行政も司ることはできません。時代は変化していきます。今までは良かったことも少しずつまた大きく対応せねばならない時代変化という観点につきまして町長のご見解をお伺いしたいと思います、どのような考えがあるでしょうか。ありましたらお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 議員ご質問の件ですが、やはりコロナのことも含めて世の中何が分かるか分からないということである程度のシナリオを作っていくことが大事だと思っております。10年後、30年後、50年後というようなところも必要ですし、マクロ的な考え方、見方、また目の前で起こっているミクロ的な視点も必要だと思っております。もう一つ、時代の潮流ですね、趨勢を見る目も必要だと思っております。そして今コロナの時代に必要な目としては蝙蝠の目というか、逆さに世の中を考える視点も必要ですので、そういった複合的な視点を4つの視点を混ぜ合わせながら世の中のシナリオを作っていくという、先ほどの3番議員からもご指摘ありましたが、私は超プラス思考ですので、そういったところを含めて世の中を見据えたことが必要だと思います。学校給食の件に関しましても、こういった食材費が高騰する中でどうやって展開するのかというのはしっかりと担当課、また教育委員会と、あと栄養士の先生たちとも含めて話をしていきたいと思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕 ありがとうございます。この食材費ばかりではなくですね、時代は変化するのが当たり前という時代でもありますので、今まで違う観点、今までと違う視点、発想もすべての面では言いませんがあらゆる面に必要な角度になってくると思います。次の項目であります。地方創生臨時交付金の活用に移りたいと思います。今年の4月に内閣府より発出されました文書、令和4年度における新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金の取扱についてという、その中で、物価高騰に伴う学校給食等に関する負担軽減という項目が追加されております。これは物価高騰による給食費値上げを抑えるため、地方創生臨時交付金を活用できるとするもの

であります。有田町においても活用すべきものと考えますが、現時点では予算案の中に載っていると思いますので、答えられる範囲でお尋ねをしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 議員が仰られるとおりではございますけれども国の地方創生臨時交付金の対象事業といたしまして学校給食等の負担軽減への活用が示されております。本町といたしましても昨今の急激な物価上昇に伴い、学校給食の食材の調達にも影響がでているような状況でございますので、この臨時交付金を活用して給食費の支援補助といたしまして、物価高騰の分、これはまだ数字はあれなんですけども約10%程度を目途に補助を予定するというところで今議会において補正予算をお願いしているところでございます。

〔11番 蒲原多三男君〕 補正で、案、あくまで案ですけども750万円ぐらいですね、上げてあったと思いますが、臨時交付金の活用事業の例としまして、先ほど言いました感染症対応とか雇用困窮者支援事業、観光、教育、文化、スポーツ、数十項目に渡る面での活用が例として挙げられてあります。有田町ならではの活用のご検討をと思いますがいかがでしょうか。また、今回の臨時交付金の額と予算書案ですので、今後の予定としておよその内訳が現時点でどのようになっているかお尋ねしたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金ですけど、まず令和4年度に使用できる分として、今のところ2回示されております。1回目、2回目という形ですね、示されております。まず1回目の方ですけども、こちらの方は、国の令和3年度補正分として1億7,007万3,000円、それと先程議員さんの方で仰られた4月に示された分としてこちらの方が国の令和3年度補正の保留分と令和4年度の予備費分として1億2,554万4,000円あります。この分が上限として交付される予定になります。このうち1億2,554万4,000円のうち令和4年度予備費を財源として交付される9,415万8,000円がコロナ禍における原油価格物価高騰等総合緊急対策の分という形になっております。今回の6月議会の方に上程しています6月補正予算内に、先ほど学校教育課長が申しました給食費の物価高に関する分の部分も750万円を計上をしております。このほかにもですね、同じく原油価格物価高騰等の総合緊急対策として保育所等給食提供費用補助ということで、こちらは保育園の、保育園の方も給食費がございますのでこちらの方の補助費、それとですね、マイナンバーカードの取得者に商品券を配布するという形で、こちらの方も一応物価高の対応も一部含まれておりますので

そちらの方も今度の議会の方にですね補正として追加させて頂いております。これ以外にも避難所の改修として泉山体育館の屋根の改修工事とか、文化体育館の床ですね、フロアの改修工事、それとこちらの方は既に当初予算の方で組んでおりましたけど、陶器市への補助金の上乗せ分ですね、それと、あと農業持続化強化支援の事業などに使用するようにして今議会の方に予算の方を計上させて頂いております。このほかにも今回の議会6月補正に未計上で現在検討している事業もございますので、詳細を固めた上で9月補正予算で改めて計上させて頂くという形になります。

[11番 蒲原多三男君] 現時点でおおざっぱになるでしょうけど、国から来るこの臨時交付金の何割ぐらいが現時点で決まっているかどうか、案としてお尋ねしたいと思います。おおよそでいいです。

[今泉藤一郎議長] まちづくり課長。

[吉永まちづくり課長] ちょっとまだ漠然としたところ、まだ細かいところまで出ていないんですけど、大体一番当初示された1億7,000万円分程度はこの中で見ているような形になります。

[11番 蒲原多三男君] 今日じゃなくてもいいですけど、ある程度項目で予算書全部見よればあちらこちらを見らないかんですので、この臨時交付金についてのおおよその項目と予算というか一覧とかは後日で結構ですけど頂けますかね。

[今泉藤一郎議長] まちづくり課長。

[吉永まちづくり課長] この後の6月補正予算の中の補足説明の中でちょっと申し上げようと思ってきましたけど、一応参考資料の方に新型コロナ対応という文言を入れておりますので、その分がほぼこの交付金を使った事業という形になります。

[11番 蒲原多三男君] 参考資料にあるということですね。はい分かりました。今後も現時点ではアフターになるかウイズになるかのまだ微妙な時期もありますので、町内にはいろんな角度の観点でお困りの方はいると思いますので、今までにない角度で困窮者あるいは現実、仕事、収入等いろいろな角度があると思いますので、更なる交付金の活用がありましたらですね、参考の中っていうか、思考の中に入れて頂ければと思いますので、よろしく願いいたします。続きまして、地域防災力の強化についての質問をいたしたいと思います。近年は私が申すまでもなく風水害や地震等の災害が各地で発生し、政府や地方公共団体による適時、的確な防災対応が一層求められていることが強く感じるものであります。最近にありましては気象庁では、気象庁が提供する防災気象情報が地域住民の的確な防災行動力に防災行動に結びつくよう気象台と市町村が一体

となって気象防災に貢献するための事業を推進しております。気象台職員が地域防災計画や避難情報の判断、また教育機関や消防機関等との連携によって災害への備えの在り方や、災害発生時取るべき行動など市民や事業者向けの啓発イベントも気象庁によって開催されております。さらに市町村に向けて「JETT」ですけれども、気象庁防災対応支援チームというのを作って、それぞれ自治体に派遣して防災対策を直接支援して令和2年度は22事例で述べ840人の防災対応支援チームが148自治体に派遣されているということも既に行われております。これらは情報発信のタイミングについてもまた地方公共団体と共同して最適化を実施しております。今後のことになるとは思いますが、気象庁との連携も防災対応ということでは必要でないかと思いますが、町長、所見がありましたらお尋ねしたいと思います。いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご質問の件にお答えいたします。実際、気象台の佐賀気象台の台長さんご挨拶に来られております。非常に我々としてもありがたく今、連携をさせてもらっております。担当の職員さん、有田町担当の職員さんもおられて、うちの防災担当とも顔を直接会わせてお話ができてますので、防災の時はやはり信頼関係も重要になりますので電話だけではなくてしっかりとコミュニケーションも今取れています。やはり気象台の方とお話をしていると、防災講座をしてほしいというリクエストがあれば喜んで来ますということもありますので、それぞれの地区でご要望あれば段取りもいたしますし、また防災のことでいろんなことがあれば気象台としては率先的に協力していくという言葉ももらっておりますので、今議員がご指摘の件に関してはそのような状況で私としては大変良い関係が気象台とは築けていると思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕さらなる活用が進めればと私も思います。自然災害が昨今は激甚、頻発化しておりまして、国交省でも令和2年度に既に防災減災国土強靱化のための5ヵ年計画加速化対策として令和7年を目標に全体で15兆円の予算を元に被害の防止や最小化のため、あるいは防災インフラの整備を進めているところであります。しかし、そういう国がやる大規模なインフラ対策ももちろん大事ですが、昨今は中小河川や下水道などがある地域で多くの浸水被害が発生しておるということもあります。中小河川におけるハザードマップの作成や水害リスク情報の充実整備、市街地の浸水対策の加速が期待されると思いますが、この件についての見解や取り組みがありましたらお尋ねをしたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕市街地の浸水対策ということですけども、中小の河川等ということになりますと、

町だけでなく越県との連携等も必要になってこようかと思えます。昨今、内水氾濫という言葉に耳にしますけども、河川の水が、河川の水位が高くなったことによって河川周辺の雨水が河川に流入できずに周辺が浸水していくという内水氾濫と、もう一つは河川が氾濫して周辺が堤防等の決壊によって周辺が浸水していく外水氾濫2つの要素があろうかと思えますけども、そういった2つの要素を先程3番議員さんの中で答弁させて頂きましたけど、ハザードマップの中にそういった想定を盛り込んだ内容になっております。そういった情報を事前に確認をして頂く住民の皆さんにはその備えをして頂くということと、町としましては河川の整備、水路等の適切な維持管理ということも行いながら、町民の皆さん自身での維持管理ということの協力も得る必要があるというふうには考えております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。②、③は関連しますので前後する部分もあると思いますが、気象防災アドバイザーという取り組みが今なされて今年5月、令和4年5月現在で111名全国でいらっしゃるということです。これらの人がより多くの自治体に気象防災アドバイザーを活用できるように、気象予報士の方を対象とした育成研修も実施されているようになっております。先程申し述べました河川への水の流入やダムの水位などリアルタイムで情報を分析し、できる限り狭い地域の具体的な被害を予測して避難指示を発令する体制を整備することは今後も必要になってくるんじゃないかと思えます。例えば〇〇町〇〇一丁目付近が浸水する可能性があるなど、より狭い地域での具体的な被害予測をして、住民の方の的確かつ安全な避難行動に備えることも今後は必要でないかと思えますが、この申し述べました気象防災アドバイザーと狭い具体的な地域での避難指示についてはどのようにお考えかお尋ねしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕具体的被害の予測と気象予報アドバイザーの活用ということですが、先ほど町長の方よりお答えしましたように気象防災アドバイザーにつきましては、現在のところ活用は行っておりませんが、気象台との地方気象台との連携をとりながらそれに値する活動は可能と考えておりますので、気象台と十分連携をとりながら行っていきたいと思えます。ピンポイントでの細かい指示等が情報伝達の手段として実施できないかということですが、より危険性のある地域に細かい指示という情報提供については、現在のところハザードマップでの提供というところが一番の情報かと思えます。議員さんが仰られるように、初動の部分で、災害になる前の初動の部分での情報提供というところが一番大きな意味を持つ行政としての役割の部分でもございますので、今現在警報等は有田町全域にいっぺんに出るといふような状況であります。昨年の8月豪

雨のように線状降水帯が数日間にわたって停滞するというようなゲリラ豪雨ではありませんけども、集中的に豪雨災害が発生しそうな状況というのは例年毎年起こってもおかしくないというふうに考えております。町としての避難レベルを一挙に避難指示レベル4を出さざるを得ないというふうな事態も十分考えられますので、住民の方々にはできるだけ多くの情報を自ら取って頂いた上で、町として情報提供を的確に行っていけるよう、今集められる情報等を元に気象台とも連携をしながら情報の伝達を行っていければというふうに考えております。

[11番 蒲原多三男君] 細かい地域で具体的な避難指示とか、命令じゃなくて、あくまでも予報ですので、例えば町全体で警報が鳴ると、町全体の意識が薄くなりますので、どうかなって地域にはあくまでも予報としての注意喚起の意味で今後も考えられるべきことではないかと私は考えます。昨年の、今出ましたが、群馬の渋川市では早期の避難情報の発令などを気象防災アドバイザーが助言して日頃も地域防災計画の見直しや市民向けの防災講座に携わっており、職員の防災、人材の育成とか、住民の防災意識の向上につながる高い評価を得ています。そこでもう一度答弁頂きましたので要りませんが、気象防災アドバイザーの活用というのを今後考えるべき課題ではないかということをお願いして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

[今泉藤一郎議長] 11番議員 蒲原多三男君の一般質問が終わりました。昼食のため休憩いたします。再開を13時、午後1時といたします。